

「シンガポール派遣参加報告書」

京都大学文学部・研究科 5年 森口遥平

- ① 英語で行われる哲学の授業を受け、そのなかで講師と英語で議論するという経験がほぼなかったため、今回の派遣で、英語で行われる哲学についてのセミナーに参加できたことは、その経験自体でとても有意義なものであった。今回のセミナー受講を通じて、専門知識と語学力が不足していることを痛感することができた。いくつかのセミナーは現地学生とともに受講したが、彼らが英語で専門的な議論を行っていることに圧倒された。今後はよりいっそう、哲学・英語両方の学習に励みたい。
- ② 派遣中に経験したことでもっとも印象に残っているのは、最終日にパスポートを寮に置き忘れ、予約していたフライトを変更しなければならなくなったことである。このときはとても困惑し、パニックに陥ったが、多くの学生・大学職員に助けをいただくことで無事に帰国することができた。そのような大きなトラブルに出会ったことが今までの海外生活ではなく、海外で現地の方に助けを求めるといった経験もなかったため、上記の事件によって、海外でトラブルにあった場合にどのように対応すればよいかを（不本意かつ不名誉な形ではあるが）学ぶことができた。また、親身になって助けてくださった方々のご厚意に深い感銘を受けた。
- ③ 今回のプログラムでは、シンガポール国立大学と Yale-NUS college でのセミナーを受講することが主目的であった。セミナーは内容や講師も毎回違うものであり、多様な分野を学んだ。セミナーに参加する前に今回のプログラムに参加した京大生全員で予習をするようにしたため、セミナー当日により深く内容を理解できたし、予習で生じた質問を講師に投げかけることもできた。空き時間には NUS 哲学科の学生と交流したり、シンガポール市街を散策したりするなど課外学習に努めた。
- ④ 今回の派遣に参加することで、進学するにせよ就職するにせよ、多様な文化と調和しながら生活したい、と思うようになった。シンガポール滞在中に、学生・社会人を問わず、多くの文化的背景を持つ人々が協調しながら生活を送っているのを目の当たりにして、その姿に魅力を感じたためである。その目標達成の第一歩として、来年度は京都大学に在籍している留学生と関わる機会を積極的に求めるつもりである。